

第 1 章 概 要

1. 教材の構成と学習方法

教材は、学習者用としての「テキスト」（パソコンによる給与計算－入門編－）と「CD－ROM」（給与計算学習用ソフトウェアが収録されたもの）および「指導者用操作マニュアル」とにより構成されています。

学習方法は、テキストおよびCD－ROMとパソコンによるマルチメディア技術を活かしたシステムにより、音声による解説を聞きながら、そして実際に操作し、入力しながらインタラクティブに、到達目標の完全習得をねらいとして学習を進めます。

2. 給与計算学習用ソフトウェア

給与計算学習用ソフトウェアは、はじめての方がパソコンを用いて給与計算ソフトの基本操作ができるようになることを目的とした学習用ソフトウェアで、「パソコンによる給与計算学習プログラム」と「学習用給与計算プログラム」とにより構成されています。

「パソコンによる給与計算学習プログラム」は、テキスト「パソコンによる給与計算－入門編－」と組み合わせて使用します。

「学習用給与計算プログラム」は、さらに学習を発展させるための給与計算ソフトウェアです。「パソコンによる給与計算学習プログラム」とテキスト「パソコンによる給与計算－入門編－」とにより、給与計算ソフトウェアの基本操作を習得したのち、更に学習時間にも余裕があり実務的な内容の課題例として「パソコンによる給与計算－課題編－」を学習したい方のために用意しました。音声による解説はもちろんのこと学習者用としての操作説明をしたテキストもありません。

学習では、給与計算についての業務経験または知識、パソコンの基本操作や入力方法は既に習得した後の訓練段階での使用を想定しております。したがって本ソフトウェアでは、給与計算ソフトウェアのマスター登録から給与賞与処理、社会保険計算処理、年末調整処理の基本操作の理解に主眼が置かれるため、その学習を阻害するような機能の訓練は極力排除した内容となっています。

3. パソコンによる給与計算学習プログラムのフローチャート

パソコンによる給与計算学習プログラムのフローチャートは、次のとおりです。

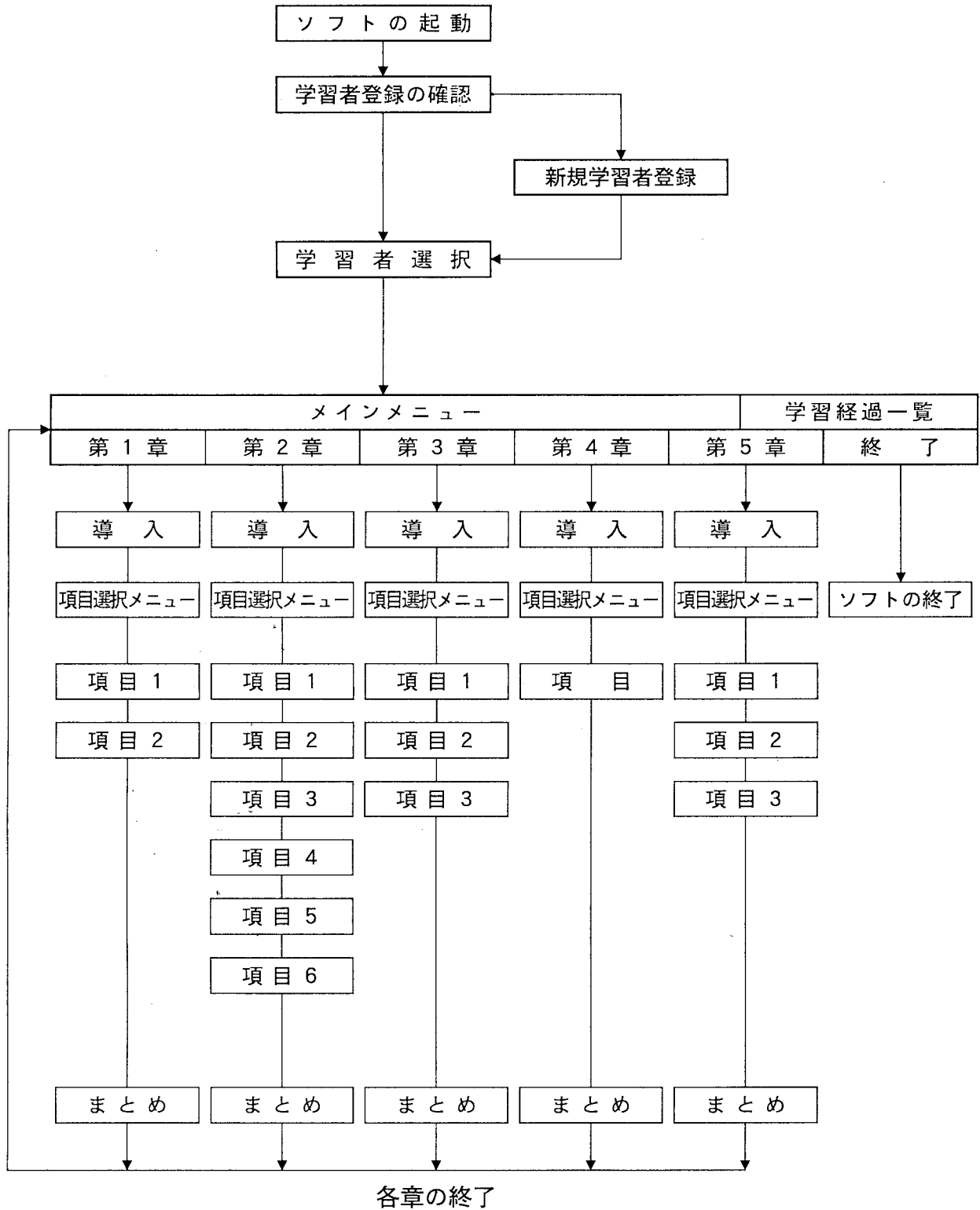


図1-1 「パソコンによる給与計算学習プログラム」のフローチャート

4. パソコンによる給与計算学習プログラムの基本的な展開

パソコンによる給与計算学習プログラムの展開は、スキップ技法とブランチング技法を基本としています。また、誤答に対する処理は、クローズ型を原則としました。学習者がマイペースで正解に到達するまで繰り返し解答させます。

5. 演習課題数

本格的な技術の定着のためには、繰り返し学習することが重要です。しかし同じ形態での学習を繰り返すことは、学習対象者が高年齢である場合は、苦痛になることも考慮しなければなりません。また学習時間もかかることから学習意欲が湧かなくなるのが実状です。

このような形態の繰り返し学習を効率的に行えるように、たとえば社会保険計算処理や年末調整処理の学習は、あらかじめ入力されているデータにもとづいて学習ができるようにし、入力件数が多くならないように配慮しました。

6. 学習時間と視力障害に対する配慮

学習時間は、学習モードが学習者制御方式であることから学習対象者により異なりますが、「パソコンによる給与計算－入門編－」の場合は、120分から180分です。

学習対象者が高年齢である場合は、一般的に学習意欲が高く連続学習時間も長くなる可能性があります。視力障害に配慮し強制的に休憩をとってください。